

# 先行した予防接種実施の成果！

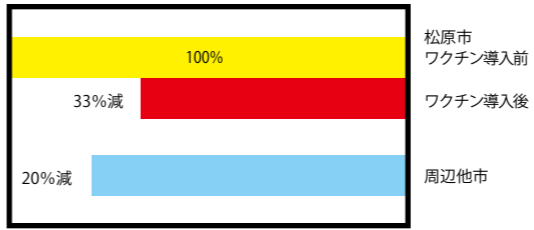


積極的な予防接種行政による  
子どもの病気の減少

阪南中央病院院長 中田成慶

## 1 小児ヒブ・肺炎球菌ワクチンを先行導入し、成果

松原市は、こどもの健康を率先して守る取り組みとして、松原市医師会の協力のもと、国の定期接種より2年先にかけて、2010年に小児ヒブ・2011年肺炎球菌ワクチンの公費助成を開始しました。



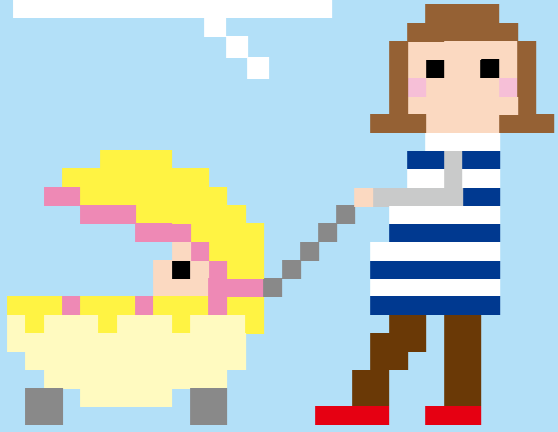
ヒブ・肺炎球菌ワクチン導入前の肺炎の入院数を100%とした時の比較（3歳以下）

結果、阪南中央病院のデータで、市での子ども肺炎での入院が周辺地域より少なくなりました。  
市独自の公費助成が周辺他市より早かった市の決断による効果と言えます。

## 2 地域の先進的な取り組みが国を動かす

この20年間で、予防接種施策が諸外国・世界標準に比べ、20年ほど遅れを取る状況が生まれました。  
しかし、松原市をはじめとするいくつかの地方自治体の先行的な取り組みと努力が国を動かし、ここ数年、ヒブ・肺炎球菌・4種混合・水ぼうそうワクチンが定期接種化し、関連する子どもの病気が減少するという成果を生んでいます。  
地方の取り組みが国を動かした実例です。

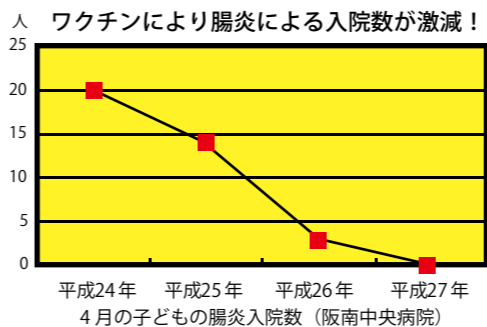
Let's go!



# かかってからではなく かからない！ 仕組みづくり

## 3 ロタウイルスワクチンに対しても先行して公費助成を開始

ロタウイルス腸炎は毎年4月が流行の最盛期で、5歳ぐらまでの子どもがかかり、熱と激しい下痢・嘔吐が特徴です。脱水症やけいれん・脳症などの合併症を伴うこともあります。  
これまで任意接種で、全国で45%前後の乳児がロタウイルスワクチンの接種を受けてきていますが、すでにロタウイルス腸炎による子どもの入院が有意に減少したことが報告されています。



2015年4月以降は、市独自の公費助成の行政効果により、子どもの健康が守られています。ロタウイルスワクチンにはごくわずかに腸重積を引き起こす危険性が高まることが指摘されており注意が必要ですが、効果が副作用の危険を大きく上回ることが世界的なデータで示されています。

## 4 ワクチンで予防できる病気はワクチンで防ぐ

予防接種で予防できる病気は予防接種で防ぐという考え方に立って、日本の予防接種行政の遅れを取り戻すことができつつあります。  
先行的な公費負担によるロタウイルスワクチンの接種開始は、松原の子どもの健康を守ることに加えて、国全体の定期接種化を進める力になるものです。予防接種行政は、子どもの保健施策の柱です。  
私たち医師会・医療機関は松原市と協力して市民の皆さんの予防接種を含めた保健・病気予防対策を進め、包括的な地域医療の向上のために今後も活動していきます。

※市の定期・任意予防接種の内容は、来月の広報まつばら4月号の折り込み「保健事業案内」をご覧ください。

問合せ  
地域保健課  
☎3337・3126



データ提供：阪南中央病院